

[要旨]

韓国における国民保導連盟の転向政策と宣伝活動

崔 仁鐵

本稿は、解放後につくられた国民保導連盟（以下、保連）による反共宣伝活動や宣伝内容を検討することにより、大衆的反共宣伝戦略の特徴と限界を具体的に明らかにし、それを基にして保連活動の意味を分析することを目的とする。韓国における国家保安法体制の下で持続的に発展してきた反共主義イデオロギーは、韓国社会の本質を読み取ることができる問題である。1948年に分断国家として樹立された韓国政府は、国家の思想的基盤と生存戦略として反共主義を選択した。

1948年政府樹立後、新たに要求された思想宣伝・監視体制の必要性に対応しつつ、1948年以降、持続的に拡大されてきた反共体制を官民協力体制に拡大したものが保連であった。保連の雄弁・決起大会・街頭行進といった行事と文化活動の映画・演劇・ポスター・音楽会・文学会を網羅する様々な宣伝方法、そして、庶民に必要な無料診察、職業斡旋などの活動は、民心を得るための努力であり、大衆に近づきやすい方法を選んだ。なお、転向していない左翼活動家や一般国民が持っている左翼に対する認識を転換させるために、繰り返し宣伝活動が行われた。強圧政策ではなく懐柔策で、一般大衆の情緒へ徐々に近づいていく役割を果たしたのである。

保連は反共教育と訓練を受けた転向者とともに全国民を対象に啓蒙、宣伝活動をした。この時期に登場した宣伝様式・組織構築方式は、朝鮮戦争以降の軍事独裁時代までその多くが活用されたという点で、社会的反共宣伝の歴史的形成過程を読み取ることができる対象である。これは解放後韓国における共産主義とその関連者を韓国独特の方式で規定し、社会的抑圧の対象として取り扱われた一つの例であり、現在に至るまで韓国において柔軟な思想の動きを制約してきたあるいはしている大きな原因であろう。